

第5回 市川市庁舎整備基本構想策定委員会行政視察報告

- 1 開催日時：平成24年10月15日(月) 午後2時00分～午後3時55分
- 2 場 所：町田市役所
- 3 出席者：
委 員 岩井委員、歌代委員、金子委員、川岸委員、北嶋委員、木戸委員、竹内委員、
戸坂委員、戸村委員、三木委員、横尾委員
(欠席者 天野委員、加藤委員、黒川委員、中村委員)
市川市 岡本企画部部長、鈴木企画部次長、岩井庁舎整備推進担当室室長、竹内主査、
赤坂主査
町田市 財務部 庁舎活用課 小寺課長、森係長
コンサルタント 2名
- 4 行 程：
14:00 町田市役所到着
14:05 川岸副委員長よりあいさつ、出席者紹介
14:10 庁舎内見学
15:10 質疑応答
15:50 視察終了

《 資 料 》

- ・事前質問事項及び回答
- ・町田市庁舎問題検討委員会報告書
- ・町田市新庁舎建設推進本部第1専門部会報告書
- ・広報まちだ2012年5月 新庁舎特集号
- ・町田市新庁舎 パンフレット

(1) 庁舎内見学

5階執務室

- ・執務空間は、連続するデスクユニットを採用している。隣の席に他課の職員が座ることも有り得る。課と課の境がわかりにくいという意見もあるが、組織改正の場合も柔軟に対応するため、この形をとった。
- ・帰宅時には机の上に書類を置かないというルールがある。
- ・課直通の外線電話の区別は、ベルの音質により区別できるようにしている。
- ・キャビネットは課ごとに割り当てし、H=1,200タイプを用いることで、執務室全体が見通せるようにしている。
- ・開口部の大きい窓を取り入れているが、室温調整や直射日光を避けるため、ブラインドを手摺上まで下ろしていることが多い。
- ・サインも組織改正等に柔軟に対応でき、改修費用が軽減できるよう、プレート挿し込み式としている。課名表示はデスク上の置き方タイプとし、吊下げ式はブロック表示（501など）のみとしている。（低層階を除く）
- ・更衣室もフロア毎に男女利用を分けて利用している。そのため、必ずしも執務フロアに更衣室があるとは限らない。
- ・通路部分にはタイルカーペットを採用、清掃等の維持費用は通常より余計にかかるが、設計理念よりこの方式を採用した。

災害対策本部

- ・普段は研修や会議室等として利用。
- ・赤外線の会議ユニット（マイク）を採用。
- ・全て自家発電で賄えるようになっている。
- ・備蓄倉庫（各避難所配送用）は境川の増水に備え、5階に設けてある。電気室等も2階以上にある。

議会関連

- ・委員会室は全員協議会にも対応可能。
- ・委員会も中継できるよう放送用のカメラを設置。
- ・議場は電子採決システムを採用。また将来に備え、LANコネクタを各机に配置。
- ・理事者側の席上には呼出ボタンがあり、隣の控室に表示するようになっている。
- ・ガラス張りの親子傍聴席を設置。
- ・会派室入口はインターホンによって開扉する仕組みとなっている。
- ・会派室は可動間仕切りで人数の増減に対応できるようにしている。
- ・防衛省からの補助を受けており、防音扉や二重サッシが用いられている。

ワンストップサービス窓口

- ・床には空調噴出し溝が通っており、空調効率を高めている。
- ・1階には3ヶ所に総合案内所が設けてあり、コンシェルジュが対応している。
- ・広いロビー空間はイベント等にも利用できる。
- ・相談室は市民が入る入口と職員が入る入口を分けている。

市民協働おうえん広場

- ・市の部局と市民や各種団体等が打合せできるようなスペースを設けているが、現時点ではフル活用されるまでに至っていない。利活用については関係団体へのPRや案内に努めている。

(2) 質疑応答

○森野二丁目の用地購入は、庁舎建設を前提で購入したものなのか。検討過程の前後関係が良く分からない。

→森野二丁目の用地は庁舎用地ということではなく、公共公益用地として購入したと聞いている。当初はタクシーの待機場や定期観光バスの発着所として運用を開始した。

○「町田市庁舎問題検討委員会報告書」のP.9表4「移転候補地の検討」の中には、明らかに「森野二丁目用地に新庁舎を建替える」という方向性が見えている比較のように思える。また、P.8図2「検討対象案の比較」も森野二丁目に移転する方向性が示されているように思える。にもかかわらず他の案も示されているのはなぜか。

→森野二丁目の用地を購入する前から庁舎問題について検討しており、その検討内容を示したものである。

○建設費の内訳はどのようになっているか。

→防衛省の区域人口あたりの補助金が約12億、積立金が約48億、地方債が約80億など。その他、東京都の地球温暖化等防止関連の補助金、BEMS（建物のエネルギー管理システム）に関し別途工事で補助を受けている。工事費の合計は庁舎本体と別途工事で約135億円となっている。

○検討段階での市民参加は。

→基本計画の検討委員会に市民委員が参加したほか、基本設計段階でも検討原案を基に市民ワークショップを開催した。市民からの「緑豊かな公園庁舎」という提案を採用し、新庁舎のコンセプトの一つとした。市民約80名（検討委員会の委員も参加）この段階での大きな変更点として、敷地の北側、町田駅前通に面して、オープンな空間（木漏れ日広場）を設けた。

○移転に伴う市民の声はどのようなものがあるか。

→一部、大空間のムダやサインの見づらさなどを指摘する声もあるが、概ね良好であると思う。

- 1階ロビーは災害時や非常時の用途は想定しているか。
→行政と市民の公開広場というコンセプトで、市のイベントや事業に活用していく方針であり、落成式の式典をこの広場で行った。
- 1階のカフェや2階のレストランはそれ程広い面積ではないようだが、庁舎外に食事に出る人も多いのか。
→駅周辺の繁華街まで少し距離があり、外食に出ている人が多いとはいえないが、1,600人の職員対応にはなっていないのは確かである。昼食持参の職員のために休憩室のほかに会議室をランチタイムに開放している。
- 旧庁舎周辺地域住民、商業者の反応は。その他の市民の声は。
→現時点では、旧庁舎を解体撤去し、広場とする予定であるが、経済的な影響が大きいことから、地元より再検討の要望が強く出されている。今後の課題である。
- 議場の出入口は議員と傍聴者の共用か。
→傍聴者と理事者、議員は分けられている。理事者と議員の出入口は同じ。
- 基本構想に1年、基本計画に1年かけており、また基本構想策定の前にいろいろな検討を重ねているようだが、どのような検討をしたのか。
→新庁舎の使い方について部門ごとにチームを作って検討した。基本計画の段階で市民の声を広く取り入れた。
- 町田市は福祉のまちづくりでは先進都市であるが、庁舎に活かされた部分は。
→設計時に誘導基準やバリアフリー新法にくれぐれも配慮するようお話しした。その他メイン、サブエントランスに音声誘導案内を設置、議場傍聴席に難聴者補聴システムを設置した。